

E-24 家計費と生活時間とくに家事的生活時間とのかわりについて

日女大家政 川島美保

目的 家計費と生活時間はそれぞれ個別に研究が進められてきたが、両者を結びつけた研究は少なく十分ほりさがられていない。しかし家計費もまた一定の生活時間構成と反映している。たとえば共働きなど家事的生活時間に制約を受ける世帯の場合、その生活時間構成に合わせた生活諸手段またはサービスが購入され、一定の家計構造を形づくっていると思われる。ここでは標準生活費研究の一環として、標準生活費算定をより客観的なものにしていくために、生活時間とくに家事的生活時間とのかわりを検討した。

方法 官庁統計など既存の諸統計・調査報告を用いて家計費及び家事的生活時間の各々について、共働きと非共働き世帯を比較検討し、家計費と生活時間のかわりを検討した。

結果 ①家庭用器機への導入は家事的生活時間の節減が想定されるが、今日の耐久消費財の普及率から、その保有状況は共働き、非共働きの間に差はみられず、従って、家庭用器機導入による共働き、非共働きの間に家計上の差は表出しない。②サービスの購入(サービス労働の購入、サービスが素材化した商品の購入)もまた時間節減の効果が想定され、当然家計においては支出増としてあらわれる。共働きの場合、支出増が顕著なものは食料費中の外食費と被服費全般、雑費の一部(交通費、保育料、社会的文化費)である。これらは炊事、裁縫、育児などの家事的生活時間の代替費用ということができる。近年、家事労働の社会的サービスによる代替の進行により、“家計支出のサービス化”の傾向がみられる。③共働きの場合、時間節減のため家事の“簡略化”を余儀なくされるが、この場合は家計上、光熱水費の支出減として表われる。